

アンガンブル

2019. 1. 25

No.40

内容について、ご意見、
ご感想をお寄せください。

編集・発行 中野区男女共同参画センター 〒164-8501 中野区中野4-8-1 TEL(3228)8229

私たちにとっての「働き方改革」とは？

最近、「働き方改革」という言葉を耳にすることが多くなりました。現在、より多くの人活躍できる社会となるように、法律や会社の制度などといった環境面の改革が行われています。より充実した生活を過ごせるように、私たち一人ひとりはどうのように考え、行動すればよいでしょうか。

「働き方改革」の基本的な考え方

「働き方改革」は、働く人々が、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を、自分で「選択」できるようにするための改革です。

その背景には、日本が直面する「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」、「働く人々のニーズの多様化」などの課題があります。それらに対応するためには、「投資やイノベーションによる生産性向上」とともに、「就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくる」ことが必要です。

働き方改革を総合的に推進するため、「長時間労働の是正」、「多様で柔軟な働き方の実現」、「雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保」などのための措置^(※)も講じられています。

「一億総活躍社会」の実現に向けての取り組みが始まっています。

※2018年7月6日公布「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」
2019年4月1日から「働き方改革関連法」順次施行（厚生労働省HPより抜粋）

働き方の種類

「働き過ぎ」を防ぎながら、「ワーク・ライフ・バランス」を実現するための「多様で柔軟な働き方」とは、どのような働き方のことでしょうか。

近頃は副業を認める企業が増えるなど、就業規則にも変化が見られます。所属する企業などの「働き方の制度」を知ることで、個々の事情に合わせた働き方を選択することもできるのではないのでしょうか。ここでは主に会社員など、雇用されている人を対象とした比較的新しい働き方を紹介します。

短時間勤務 (時短勤務)	1日の所定労働時間を短縮して働くこと。 週または月の所定労働時間を短縮する働き方もある。
時差出勤	始業・終業の時刻を繰上げまたは繰下げて働くこと。 1日の実働時間が定められている。
フレックスタイム制	労働者が総労働時間枠内で各日の始業及び終業の時刻を自主的に決定し働く制度。コアタイム（必ず勤務すべき時間帯）を定めるケースが多い。
テレワーク	情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。 在宅勤務（リモートワーク）も含む。
副業・兼業	本業の勤務時間外において、他の会社などの業務に従事すること。
パラレルキャリア (パラレルワーカー)	本業を持ちながら、本業に関わる他の仕事、あるいは非営利活動などを行うこと。 ※まだ確立した用語ではない。

フリーランス

特定の企業や団体、組織に専従しない独立した形態で、自身の専門知識やスキルを提供して対価を得る働き方のこと。

※用語の定義については、厚生労働省HPなどを参考に作成

多様で柔軟な働き方 ～副業について～

政府が掲げる「働き方改革」により副業が解禁となった 2018 年は「副業元年」ともいわれます。なぜ企業は副業を認め、従業員は副業を行うのでしょうか。

副業の企業側のメリットは「会社の定着率が上がった」「従業員のモチベーションが上がった」などです。会社に勤めていると、日々同じことの繰り返しで、ふと自分の立ち位置や目標を見失いがちです。元気のない従業員がつくる会社は当然元気がありません。副業を取り入れることでその流れが変わっていくことが期待されます。副業は、従業員にとってもスキルアップという大きなメリットがあります。

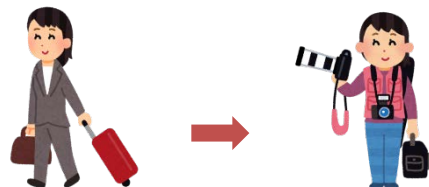
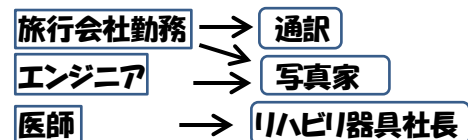
人生 100 年時代となり、一度就職した会社に一生をゆだねるのではなく、老後のために自分の力を試す、または自分の新たな可能性を求める人が増えています。いきなりの起業が難しい場合は、副業で試してみる、昔やってみたかったことに挑戦する、という人もいます。

副業は個人事業での形が多く、副業を認めている会社はまだ 30%以下 (※) ですが、2017 年度より上昇していて、今後も増えていくと考えられます。

副業が可能になれば、就業時間も変わるでしょう。会社の人材も流動化、多様化することで、より誰もが働きやすい職場となっていく一歩であるともいえます。出産や子育て、介護などで会社に継続して勤めることが難しい女性をはじめとして、あらゆる人の積極的な活用にも繋がるでしょう。

※「兼業・副業に対する企業の意識調査 (2018)」(株)リクルートキャリア

【副業例】



「働き方改革」を企業の視点で捉えてみる

働き方改革について、生産性の向上や業務改善が問題とされていますが、本質は今後の日本経済の活性化（新サービスの創出、創業前の助走）という視点もあります。日本の企業において大半を占める中小企業では、今深刻な人手不足です。この状況を前向きに捉え、変革が進む良い機会と考えなければなりません。プロフェッショナルな人材のスキルを有効に活用できれば、良い循環が生まれるのではないのでしょうか。

また中小企業の経営者も思い悩まず、行政が運営する機関に相談してみてもいいのではないでしょうか。

【国が全国に設置した経営相談所】

よろず支援拠点 ～中小企業・小規模事業者のための経営相談所～

<https://yorozu.smrj.go.jp/about/>

【中野区の経営相談】

どこでも出張相談 ～中小企業診断士による出張経営相談～

<http://www.city.tokyo-nakano.lg.jp/dept/162000/d004635.html>

オススメの
無料相談
です！

意識の改革 ～「仕事」も「生活」も～

私たちは、仕事人としてだけでなく子育てや介護などといった家庭人としての様々な役割を担っています。「仕事」か「生活」かの優先順位をつける中で、子育てや介護のためにやむなく仕事を辞めてしまったり、また仕事を辞めていなくても、職場に迷惑をかけているのではという罪悪感を覚えながら仕事をしたりしている方もいるのではないのでしょうか。

「仕事か生活か」ではなく、「仕事も生活も」という考え方もできることを忘れないでください。「仕事も生活も」と意識を転換してみると、自分の行動もその考え方に合わせて変化します。

たとえば、子育てや介護に直面している人の場合、

「仕事も生活も」という意識

◆ 政策面や会社の制度で活用できることはないかと思うようになったり・・・

😊 「育児・介護休業法」は、育児休業期間の延長や、育児休業給付の受給期間の延長、介護休業を利用しやすくするなどの改正がなされています。

◆ 周りのサポート資源の存在に気付いたり・・・

😊 職場ではいざという時のために仕事を抱え込まずに常に進捗状況を共有し、家族と前向きに子育てや介護の分担について話し、また地域社会の助けを求めるようになります。

◆ もっと長い目でキャリアを見るようになったり・・・

😊 今の状況はずっと続くわけではなく、子育ての場合、子どもの成長に伴い自分の時間配分も次第に変化するという意識を持つと、今の状況をより前向きに乗り越えることができます。

更に、仕事と生活の両方を充実させることで、生活の知恵を仕事に生かすことができます。たとえば、子育てにおいて身につけたコミュニケーション能力や調整能力など、あなたのスキルを仕事に大いに生かせるといった相乗効果が期待できるでしょう。

自分らしい「働き方改革」 ～社会に目を向けよう～

私たちは様々な役割を、「家庭」「学校」「地域社会」「働く場」などで果たしています。仕事は重要ではありますが、人生における一つのステージにすぎません。生活のために安定した収入が必要ではありますが、やりがいや新たな刺激、より多くの人の役に立ちたいといった、他に満たしたい事柄もあります。

より柔軟な働き方や副業といった選択肢が増える中で、広い視野で自分の活躍できる場を見つけ、社会との関わり方を大切にする必要があるでしょう。たとえば、自分の持っている資格や能力を会社以外の場で生かしたり、地域社会の課題について積極的に考えて、提案してみたりといったこともできるでしょう。

視点を社会に向けると、一歩を踏み出したことによる変化や刺激が自分自身にとって、また本業においても変化や刺激として現れてくるでしょう。



事業実施報告

女性に対する暴力をなくす運動パネル展

開催期間：平成30年11月12日～11月16日

毎年11月12日から11月25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間と内閣府男女共同参画推進本部が定めています。その一環として中野区役所の1階区民ホールで展示が開催されました。今回は「女性と人権」をテーマにして、公益財団法人日本女性学習財団の「なるほどジェンダー」という題材でのパネル展示です。職場や社会で「ある、ある！」という女性蔑視の風景が分かりやすいコマのイラストで描かれています。会社ではどんな年齢でも「女の子」と女性を呼ぶ。「そんな若い子



いたっけ？」という中年女性の吹き出しのセリフにクスリ。ゲームのキャラクターでは胸やお尻を強調し、露出の多い女性ファイター。テレビでも女性アシスタントはパニーガールなど。また、先進国の中で男女の賃金格差は一位というショッキングな内容も。日常よく見る風景。でも何かおかしいよね。と思われる内容がしっかりと描かれていました。未だにこんなこと？やっとおかしいと言えるようになったのか？

「ジェンダー」とは「社会的性別」と訳されます。いわゆる「男らしさ、女らしさ」。「女らしさ」とは未だに男性社会の下にいて、男性に従うイメージがぬぐえないのがよく分かりました。女性が「エンパワーメント」して力をつけるのと同時に、社会がそれを受け入れる体制がなくてははいけないと思いました。遅々として進まない、男女平等。その難しさを改めて感じました。（編集委員 阿部）

編集後記 from 区民編集委員

- 働き方改革で私たちの選択肢は広がります。本当に自分が何をしたいのか、どう生きるのか、しっかり見つめ直さなければいけませんね。（阿部）
- 男女がそれぞれの個性を持ち寄り、認め合い、刺激し合いながら新たな価値を作り上げていく。そんな美意識が必要な時代ですね。（温）
- 平成から次の時代へ。高齢化社会や右肩下がりの経済への突入。テクノロジーや世界の人々との繋がり、新しい価値観や意識改革を今後も皆さんと考えていきたいと思っています。（鈴木）
- あふれる情報の中から必要な情報を取り出す、それは簡単だけど難しいと編集作業を通じて改めて思いました。いかに情報技術が発達しても、結局決めるのは自分・・・ですね。（野崎）




〒164-8501 中野区中野4-8-1

区役所内 4階6番窓口

Tel 03(3228)8229 Fax 03(3228)8860

Eメールアドレス danjosenta@city.tokyo-nakano.lg.jp

▶窓口 月～金曜日 8:30～17:00(祝日、年末年始は除く)


**中野区男女共同参画センター
アンサンブル**

講座等の情報をメールでお知らせします。ご希望の方は、男女共同参画センターにお知らせください。